令和５年度　江戸川区立葛西小学校　学校関係者評価　年度当初・中間報告書

学校教育目標	○心ゆたかな子ども　○よく考える子ども ○最後までやり抜く子ども　○健康な子ども	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・保護者にとって、子どもを通わせてよかったと思える学校 ・「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた子ども ・人権尊重の精神に富む教師。保護者や地域との連携に努め、誰からも慕われる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞新型コロナウイルス感染症によって控えていた行事や取組を実施することができ、保護者や地域の方に本校の教育活動について深く理解していただくことができた。 外国語科や外国語活動と中学校の英語科の連携授業や算数科の研究における中学校教員からの助言、小中合同の防災訓練の実施など小中連携の推進を図ることができた。 ＜課題＞教員の授業力・指導力の向上、同時に学習用タブレットやiPadを活用した授業の展開を図り、児童にとって分かりやすい授業を実施し、基礎的学力の向上を図ること。 不登校対策支援シートの継続的な作成と、組織的な不登校対策による不登校児童を0にしていくこと。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	○全教員の授業公開を年間1回以上実施 →児童にとって個別最適な学び、協働的な学びになっているかという視点をもつ。 ○算数科を対象にした校内研究授業を年6回実施 →児童にとって苦手とする単元を中心に研究を進める。 ○基礎的・基本的な学習内容の理解を高める。 ・「江戸川っ子 study week」を学期に1回実施 ・放課後の補習教室を年間30回実施 ○家庭学習強化週間の実施	○6年生による全国学力・学習状況調査の結果 ・国語科　全国平均以上 ・算数科　全国平均以上 ○東京ベーシックドリルにおける算数科の評価テストで正答率8割以上 ・低学年では全体の85%以上 ・中学年では全体の85%以上 ・高学年では全体の80%以上						
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	○図書館ボランティアによる読み語りやお話集会の充実 ○学校図書館の本を活用した探究的な学習の充実 ・全学年、学期に1回探究的な調べ学習を行う。 ・「調べる学習コンクール」への参加を促す。 ○葛西図書館職員の巡回を活用 ・学校図書館の整備 ・探究的な調べ学習に活用できる本の紹介	○年間の読書の本の冊数 ・低学年90冊以上 ・中学年80冊以上 ・高学年50冊以上 ○「調べる学習コンクール」への参加を50人以上						
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞	○「葛小遊びタイム」の実施 →全児童が体を動かす機会を作る。 ○体育授業の充実 ・主運動前の基礎的な運動を継続的に行う。 ・走る、投げる運動を多く取り入れる。 ○記録会の実施 ・長縄跳び記録会を年3回実施 ・持久走記録会	○体力テストでの結果 ・どの種目においても東京都の平均を上回る。 ○記録会の結果 ・長縄跳びにおいて全ての学級で3回目の記録が最高記録になる。 ・持久走記録会のタイムが昨年度よりも速くなる。 ○年度末の児童アンケートによる回答 ・体を動かすことが心地よいと肯定的に回答する児童が80%以上にする。						
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	○巡回指導員主導の研修会の実施 ・個に応じた指導の共通理解を図る。 ○コーディネーターや特別支援専門員を中心とした特別支援教育の組織化 ・児童に対し連携した対応を行う。 ・校内委員会で挙がった内容について全教職員で共有し、支援の方向性を理解する。	○特別支援教室に通う児童の変容 ・支援計画における目標に達しているかの判定 ・特別支援教室を終える児童の数を年度末により多くなるように指導を行う。 ○保護者への年度末アンケート結果 ・肯定的な評価を90%以上にする。						
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用	○不登校児童分析シートの活用 ・各学級で気になる児童、不登校気味の児童において、必ずシートを作成する。 ○全教職員による児童理解の充実 ・週に1回の生活指導夕会を実施 ・年3回の生活指導全体会での情報共有 ○hypaer-QUを活用した学級の見直し	○不登校児童の人数 ・年度末における不登校児童数を0に近づける。 ○いじめ案件の未解決数 ・いじめによって悩んだり、苦しんだりしている児童をなくすように組織的な対応を行っていく。年度末には未解決を0にする。 ○hypaer-QUの活用 ・結果から学級の改善を図り、年度末の児童へのアンケートで、学級に所属していたことに対して肯定的な回答が80%以上にする。						
地域に広く開かれた学校（園）の実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	○定期的なホームページの更新 ○年4回の土曜日の学校公開の実施	○保護者への学校評価アンケート ・「開かれた学校」「学校は情報を発信している」という項目において、肯定的な回答が90%以上						
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	○年3回の学校評議員会の実施 ・本校の学校関係者評価を活用しての教育活動の説明を行い、それに対する評価をいただく。	○学校関係者評価の結果 ・年度末に学校関係者評価の内容に関して、肯定的な回答が80%以上						
特色ある教育の展開	＜小中連携教育の更なる推進＞ ・「小中を通じたカリキュラム・マネジメント」による学力の向上及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	○小中連携の具体的な活動の充実	○教職員へのアンケート結果 ・年間を通して小中連携における具体的な活動を実施できたのかを振り返り、全教員が年1回以上は実施したとの回答を得る。						
	＜防災教育の充実＞ ・災害発生時の対応の場合の共助の心の育成	○防災体験教室の実施 ・夏季休業日明けにPTAと協力し、防災体験教室を行う。	○実施後のアンケート結果 ・肯定的な回答が80%以上						